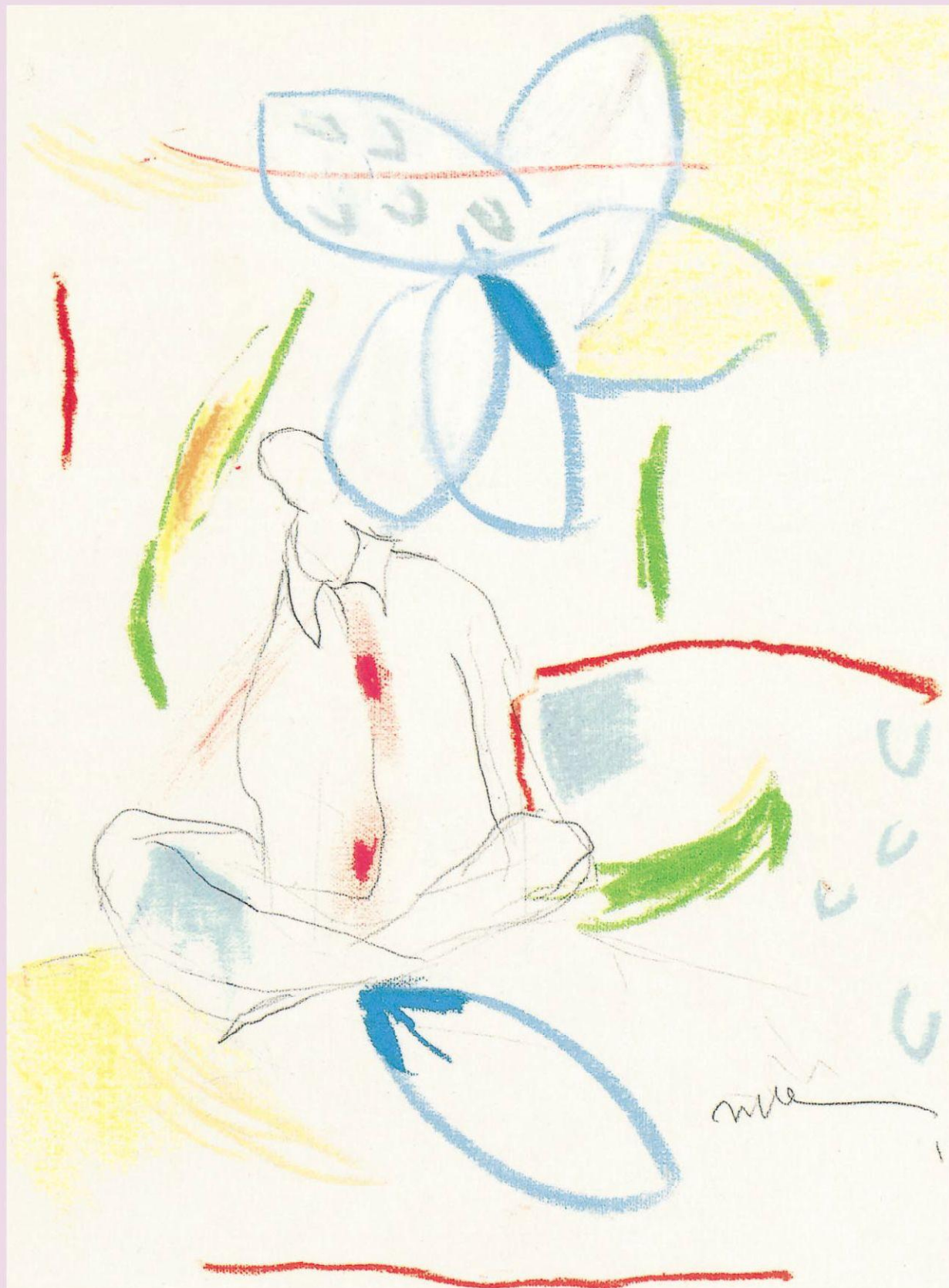
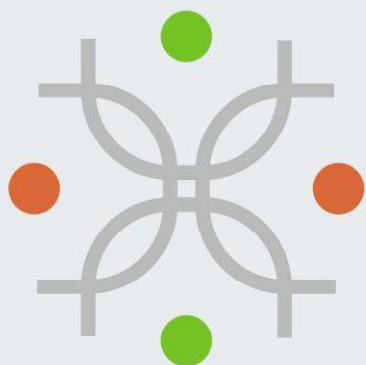


熊大通信

特集

ハンセン病と熊本





Upgrade Unique Union Universal
KU4U

熊本大学の約束(KU4U)

Kumamoto University For You

私たちは、熊本大学を
開かれた心地よい環境の大学として、次の4つのことに全力を投入します。

Upgrade

未来を生き抜くプロフェッショナルの養成

Union

地域連携と社会貢献

Unique

新たな知的価値の創造

Universal

留学生教育と国際貢献

C O N T E N T S

1 知と社会 Vol.17

ハンセン病と熊本

5 ~偏見や差別をなくすために、今私たちが取り組むべきこと~

6 夢の実現 Act.5

北極と南極の磁場は、 ときどき、逆転する。

7 熊本大学理学部 教授 渋谷 秀敏

8 熊人群像

「楽しさ」が力を伸ばしていく

—自分自身も、子どもたちも。—
9 熊本大学教育学部2年 大村 詠一さん

10 卒業生を訪ねて

伝えること、知らせること、 語り継ぐこと—私の使命として

11 作家・脚本家 毛利 恒之さん

12 国際交流

① シリョウ 国際交流協定校~ドイツ編~

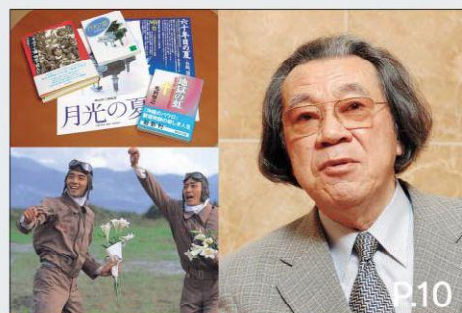
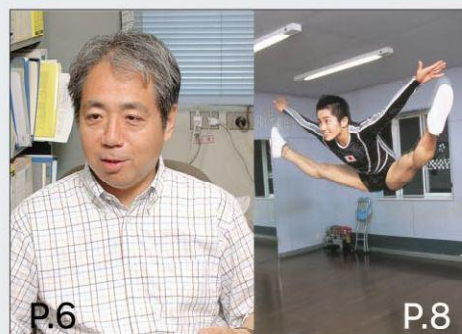
学生天国・ドイツで 英語文化の相対化を

14 熊大INFORMATION

17 平成18年度 大学院試験日程

OPEN CAMPUS

ほか



表紙／ブルースター (ドローイング258×183mm)
作／川田 なな
作者プロフィール／(1975-2001年)熊本県天水町生まれ。大胆なデフォルメと繊細な色使いが魅力の画家。学生時代に全国大学版画展で優秀賞を受賞するなど、将来を囑望されていましたが、突然の病気で夭折。本人が好きだった実家のみかん山に「なな、みかんギャラリー」がオープン。



ハンセン病と熊本

— 偏見や差別をなくすために、今私たちが取り組むべきこと —

平成8年に「らい予防法」が廃止され、同13年に同法の違憲性を断じて国に賠償を命じた熊本地裁判決が出て以降、ハンセン病問題は大きく進展した。

しかし、同15年に熊本県内で発生したホテル宿泊拒否事件に象徴されるように、長すぎた隔離政策により、社会にはいまだ病気に対する偏見や差別意識が根強く残っている。すべての人の人権が尊重され、偏見や差別のない社会を実現するためには、より一層の啓発が必要だ。なかでも学校教育が果たすべき役割は大きい。

今回は、歴史的にもハンセン病にかかわりが大きい熊本を中心に、私たちは今ハンセン病問題にどう取り組んでいくべきかを考えよう。

なぜ、なくならない、差別や偏見

世界には現在、約50万人のハンセン病患者がいると推定されている。しかし、日本国内での患者発生数は少なく、平成15年は日本人1人、外国人7人、平成16年は日本人4人、外国人8人。そのほとんどがかつて感染していた高齢者が免疫力の低下によって発症したり、母国で乳幼児期に感染していた外国人が日本国内で発症したりするケースである。このため、現在の日本では、ハンセン病は「感染症法」の対象疾患にも入っていないほどだ。

小野友道熊本大学副学長は、「ハンセン病問題を風化させず、各界・各方面で啓発し続けることにより、AIDSやSARSなど新たな病気による差別や偏見が生まれることを防ぐことができる」と語る。

しかし、こうした状況にあってもなお、ハンセン病に対する社会の見や差別は少なくない。平成15年、ハンセン病元患者の「ふるさと訪問事業」において、熊本県内のホテルが宿泊を拒否した事件も、そうした社会の偏見や差別の一端が表面化した事件だったといえよう。

なぜ、ハンセン病に対する偏見や差別はなくならないのだろうか。

この点に関して、小野友道熊本大学理事・副学長は、「日本では、ハンセン病の治療は主にハンセン病学会に委ねられてきた経緯もありますが、社会の偏見や差別を考えると、私たち皮膚科医は『皮膚と心』の観点から、もつとハンセン病の患者さんたちと向き合う必要があったのではないかと思います」と日本皮膚科学会の理事で、皮膚科医の立場から率直に振り返る。小野副学長がいう「皮膚と心」の観点とは、ハンセン病の発症に伴って現れる末梢神経や皮膚などの知覚運動まひが、手足や顔などに身体障害や後遺症となつて残ることを指している。

もちろん、現在では早期発見早期治療、特にいくつかの薬剤を組み合わせた多剤併用療法によつて、このような後遺症もなく完治することができるのだが、以前に感染した人の中には身体障害や後遺症がある人が多い。このため、目に見える皮膚な

どの異常が、本来は差別する気持ちなどを持たない人のなかにも、ハンセン病に対する偏見や差別の芽を生む原因の一つになっているのではないか。そう考えると、ハンセン病はまさしく皮膚の病気であり、社会の中でつくられる差別の関係性の問題である。小野副学長は、皮膚科医という専門的な立場で、「歴史的にみて、熊本はハンセン病に関連する話題や事件が多い地域です。ここに住む医者として、私は一人ひとりの患者さんや元患者さんのQOL^{*1}を大切にしたい」と話す。小野副学長は、今年3月、厚生労働省が東京で開いた「第1回ハンセン病問題に関するシンポジウム」にパネリストとして参加した際も、そうした思いを込めて発言、会場の共感を得た。

では、専門家ではない私たちはハンセン病問題について、どう取り組んでいくべきなのだろう。まずはハンセン病の歴史について振り返ってみよう。

熊本に集まったハンセン病の患者たち

ハンセン病の歴史は古く、すでに日本書紀に「白癩」という記述が見える。この頃から中世にかけては、主に宗教関係者が救済活動を担っていた。

初期は仏教の、そして近世には渡来したキリシタン宣教師の影響で大名や豪商たちの手によつて行われた。

しかし、江戸時代になると、厳しい封建制度下で、一部の患者たちは特定居住地区に閉じ込められるようになった。現在の熊本市の本妙寺に患者集落ができたのもこの頃のことだ。本妙寺には、2007年に築城400年を迎える熊本城を建造した加藤清正公の霊廟がある。清正公の死因は不明だが、当時は清正公もまたハンセン病を患っていたといううわさがあり、これを信じた患者たちが清正公を慕つて集まつてきたともいわれている。

ハンセン病を発症するらい菌の感染力は本来弱く、インフルエンザのようにすぐに感染するわけではないのだが、そうした患者集落では、菌と長期間密接に接触することになり、歴代にわたる家族内感染が繰り返された。このため、周囲の人たちに「遺伝病」「らい家系がある」などの誤解を生み、この病気にかつた人とその家族はいわれなき偏見と差別に苦しめられた。

患者のパラダイスを つくろうとしたリデル

明治になり、国内の移動が自由になると、患者たちは全国に散らばった。

*1-人間らしい充実した生活の意味で、Quality of Lifeの略

ハンセン病 関連年表

古代～中世(飛鳥～鎌倉時代)

仏教の影響を受け、朝廷や寺院による貧者や病者に対する慈善事業が盛ん。日本書紀などに「白癩」の記述あり

中世～近世(室町～江戸時代)

熊本の本妙寺、上野の草津、四国の金比羅などに患者集落発生

近代(明治～大正時代)

1873(明治6)年 ノルウェーの医師ハンセンがらい菌を発見

1895(明治28)年 英国人伝道師ハンナ・リデルが熊本に私立回春病院を開設

1898(明治31)年 フランス人神父コールが熊本に私立待労院を開設

1907(明治40)年 「癩予防に関する件」公布

1909(明治42)年 公立療養所が全国5か所に開設(熊本に九州癩療養所:現菊池恵風園)される

1915(大正4年) 断種手術開始

1916(大正5)年 「癩予防に関する件」改正案施行(裁判なしで患者の処罰が可能に)

現代(昭和～現在)

1931(昭和6)年 「癩予防法」制定(この法と「無らい県運動」により、強制隔離によるハンセン病撲滅政策が広まった)

1940(昭和15)年 本妙寺事件(熊本県は本妙寺周辺のハンセン病患者集落から157人を強制収容し、全国の収容所に分散移送)

1947(昭和22)年 日本で特効薬プロミンの試用開始

1951(昭和26)年 藤本事件(熊本県菊池郡で起きた殺人事件でハンセン病患者と報告された容疑者が逮捕され、死刑判決を受けた)

1953(昭和28)年 「らい予防法」制定(「癩予防法」の強制隔離や懲戒検束権などが踏襲された)

1954(昭和29)年 竜田寮児童通学拒否事件(菊池恵風園の入所者の子どもでもある未感染児童たちの黒髪小への通学を同小PTAが反対。事件後、児童が入所していた竜田寮は閉鎖され、児童たちは各地の養護施設へ送られた)

1960(昭和35)年 WHO(世界保健機関)が外来治療を勧告

1996(平成8)年 「らい予防法の廃止に関する法律」制定

1998(平成10)年 熊本地裁に、星塚敬愛園、菊池恵風園の入所者ら13人、「らい予防法」違反国家賠償請求訴訟を提起

2001(平成13)年 国賠訴訟で、熊本地裁は原告勝訴の判決。国控訴せず判決確定

2002(平成14)年 厚生労働大臣で新聞紙上に謝罪広告掲載(3月)

2003(平成15)年 熊本でホテル宿泊拒否事件発生(11月)

特に、本妙寺は患者集合地として有名になった。この状況を見て、最初に救済の手を差し伸べたのはやはり外国人宣教師たちである。特に熊本で始まった救済活動の存在は大きい。英国人伝道師ハンナ・リデルは本妙寺に集まる患者に衝撃を受け、明治28年、回春病院を設立、ハンセン病患者の救済活動を始めた。また、リデルは時の総理大臣大隈重信に救済事業への援助を訴えた。一方、国は衛生行政施策として、明治40年「癩予防に関する法律」を公布した。既に明治6年、ノルウェーの医師ハンセンにより、らい菌が発見されていたが、学会や世間でそれが認知されるまでに、まだ時間を要した。皮肉なことに、感染症の概念が定まってくると、今度は恐ろしい伝染病であるとの偏見が加わった。当時の日本は、日露戦争に勝利し、世界「一等国」に仲間入りしたばかり。欧米と同じようにハンセン病の根絶を目指した明治政府は、明治42年、全国

[リデル・ライト両女史記念館]

明治時代の回春病院当時からあった旧ハンセン病研究所の建物を利用した記念館。熊本のハンセン病患者のために尽くした英国人女性ハンナ・リデルとその姪エダ・ライトに関する資料や遺品などを多数展示している。熊本大学黒髪キャンパスから歩いて数分。



エダ・ライト女史



ハンナ・リデル女史



5か所に浮浪患者を隔離収容する公立療養所を開設した。隔離政策の始まりである。熊本県合志町にある現在の国立療養所菊池恵風園もこのとき九州7県の連合立「第五区九州癩療養所」として開設され、本妙寺の境内の患者27人が最初の入所者として隔離収容された。リデル・ライト両女史は「リデル女史は「患者のための平安の場をつくりたい」と述べていた。ハンセン病患者を社会から排除する隔離政策に加担したわけではありません。彼女は、例えば日本赤十字社のような施設を全国に開設するよう訴えていた。回春病院の患者たち

は、病院で療養しながら近くの商店街や映画館に出かけるなど、自由な環境にあったのです」と、リデルが国策としての「らい予防法」とは異なる精神での活動を行ったことを強調する。しかし、時代は患者たちに慈愛に満ちた環境を提供しなかった。国の近代化を推し進めるなか、ハンセン病対策は、治療で病気をなくすのではなく、患者はすべて隔離収容し、断種手術で子を産めなくし、社会からその存在を根絶しようという発想にすりかわっていく。



「最近では熊本大学の学生もよく訪れます」というリデル・ライト両女史顕彰会会長の小笠原嘉祐氏。同氏は熊本大学医学部の出身で精神科医でもある。

菊池恵楓園と熊本大学の関わり

平成8年「らい予防法」が廃止され、同13年熊本地裁の「ハンセン病国家賠償請求訴訟」で原告が勝訴。以降、ハンセン病患者や元患者に対する補償や名誉回復などの施策が国や県を挙げて進められ、ハンセン病療養施設にいた元患者の入所者たちも施設を退去して、一般社会の中で暮らす人たちが出てきた。

しかし、全国に13ある国立療養所、2つある私立療養所にはまだ3378人の入所者がいる（平成16年12月現在）。平均年齢76歳。すでにハンセン病は治っているが、後遺症による身体障害と高齢化で社会復帰が困難な人たちが多い。なかでも、前述の菊池恵楓園は最も多い511人が現在も生活している。

同園は、熊本市の北部、熊本大学から車で20分ほどのところにある。62.6haの広大な敷地の中、治療棟のほか、宿泊所や福祉会館、スパーなどの施設がゆったりと配置され、緑の樹木が多い園内は涼やかで落ち着いた雰囲気漂う。その中を車いすに乗った人たちがゆっくりと散歩している様子を見ると、何も知らずにここを訪れた人は、広々とした穏やかな療養施設と思うに違いない。



東京ドームの約13倍の広さがある菊池恵楓園の全景。

しかし、ここはハンセン病患者と元患者の人たちが世間と隔絶され、苦しく辛い闘病の日々を過ごした場所であり、人間性の回復を求めて戦い続けた場所でもある。

同園の元自治会長で、現在はハンセン病療養施設の入所者やその他の患者、元患者たちのための補償や医療の充実などを求めて精力的に活動をしている太田明氏はこう話してくれた。「昭和9年から33年まで菊池恵楓園の園長だった宮崎松記^{※2}氏の業績については、隔離政策を推進したという見方もあり、光と影がつきまといまいます。しかし、宮崎先生の時代に

『らい特殊研究班』ができ、熊本大学がハンセン病研究に大きく貢献したのは事実です」。

以来、同園は熊本大学との太いパイプによって医師を確保。現在の医師数18人は、他の療養所に比べ格段に充実しているのだという。

らい予防法の廃止後、啓発のために全国で講演をしている太田氏は、昨年引き続き今年も5月・6月、熊本大学で講演した。太田氏はその講演について「学生たちの反応が非常によい。特に、文学部の学生の中に、参考文献として挙げた文献をすぐに読んだ、という感想があつて嬉しか

った」と手こたえを感じている。さらに「できれば、今度は菊池恵楓園を訪問して、現場でものを考え、行動を伴った思考様式を身につけてほしい」と期待もしている。

ハンセン病への偏見をなくす「薬」

ハンセン病の感染がほとんどない現在では、ハンセン病の診療ができる医師が少なくなるのは当然。小野副学長によると、全国80大学のうち、すでに15校がハンセン病についての教育をやめているという。自身も若い頃に菊池恵楓園での診療経験を持つ小野副学長は、こうした現状を憂い、来年度ハンセン病学会と皮膚科学会との共同で、医師向けの教材としてハンセン病教育資料（CD付き）を厚生労働省の支援を受けて作成することを計画している。

そこには診断・治療はもちろん歴史的背景も盛り込む。「社会の偏見をなくす薬として、まずハンセン病の正しい知識を持つことが大切」と信じるからである。

だが、小野副学長は「偏見や差別をなくすには正しい知識を得ただけでは不十分」とも指摘する。「正しい知識のうえに、違ったものを認め、人に優しく接することができる『心の教養』を磨くことがより重要だ」という。

※2-宮崎松記氏

熊本大学の前身である旧制第五高等学校、京都帝国大学卒業。第五高等学校時代、学校の裏にあった回春病院で、ハンセン病患者の治療に献身的に働いていたハンナ・リデル女史の姿に感動し、ハンセン病の診療に一生を捧げることを決意した。恵楓園園長を辞した翌年インドへ渡り、インドのハンセン病根絶のために尽くした。



では、「心の教養」を磨き、人間性を高めるにはどうしたらいいのか。熊本大学では、本年度後期から全学生を対象にした教養学際科目の一つとして、ハンセン病講座を開講する。証言、歴史、現状の各編に分かれ、菊池恵楓園入所者に体験を語ってもらったり、医師、弁護士、新聞記者などに専門的立場から講義をしてもらい、現状や残された課題を考える契機を提供する。

小野副学長はこうした講座の活用とともに、「菊池恵楓園には、辛い闘病の最中にも、絵画や文学に専心した患者さんたちの優れた作品が数多く残されています。そうした作品に触れ、人生の辛さを味わった元患者さんたちの話に耳を傾けて欲しい」と、太田氏と同様に菊池恵楓園への訪問

「入所者は加齢に伴う合併症や重い後遺症による障害で、ふるさとでの生活をあきらめた人が多い。また、ふるさとに帰りたくても、家族がバラバラになったり、絶縁状態となっていたりで、帰れない人も多いのです」と語る、菊池恵楓園元自治会長の太田明氏。

を強く勧める。他者の痛みにも共感でき、思いやりをもって周囲に接する人間性を高めていくことが、ハンセン病への偏見をなくす「薬」の一つとなるに違いない。

誰もが暮らしやすい 明るい社会へ

潮谷義子 熊本県知事

全学生を対象にした教養学際科目の一つとして、ハンセン病講座を開講されるなど、熊本大学において、ハンセン病問題が積極的に取り組まれていることは、たいへん素晴らしいことだと思っております。

本県は、ハンセン病救済の先駆者であるハンナ・リデル女史によって回春病院が創設されたこと、ジャン・マリー・コール師による待労院が創設されたこと、全国最大規模のハンセン病療養所である「国立療養所菊池恵楓園」があること、また、ハンセン病の歴史を大きく変える熊本地裁の判決が出されたこと、更には一昨年の宿泊拒否事件の発生など、他県に比べ古くからハンセン病との深い関わりがあります。

平成17年3月に出されたハンセン病問題検証会議の最終報告書では、行政はもとより、医療、法曹、マスメディアなど、

ハンセン病を取り巻く、各界の責任についても言及されており、私としては、社会全体で人権侵害の再発防止に向けて取り組むことなど、人権意識啓発の必要性

を改めて強く感じたところです。こうした報告書を契機に県民の皆様方お一人おひとりがハンセン病の問題を学び、自らの問題として捉えていただくことが、地域社会におけるハンセン病への差別や偏見の解消につながるものと考えております。

こうした点も踏まえ、これまでもハンセン病への差別・偏見のための啓発事業については、①人権意識の啓発は、広汎に繰り返し継続することが必要であること、②人権問題は、他人事ではなく、自分自身の問題として捉えるという自覚が必要であること、③偏見を解消



するためには、知識を与えるだけでなく、人間的交流、共感を持つことが必要であること、④世代間偏見の連鎖を断ち切るために、若い世代に重点的に啓発を行う必要があることなどを基本として積極的に取り組んでまいりました。

こうした本県の考え方は、今回のハンセン病問題検証会議でも支持されているところであり、引き続き、これまでの取り組みをより一層充実し、粘り強く進めて参りたいと考えております。熊本大学の若い皆様方が手を携えて、自らの手で誰もが暮らしやすい明るい社会を、創って行かれますことを期待しております。

熊本大学理学部 教授 渋谷秀敏

北極と南極の磁場は、 ときどき、逆転する。

いにしへの岩石が持つ 地球磁場の記憶

地球は二つの大きな磁石で、北極にS極、南極にN極があるのは周知の事実。しかし、地球の誕生から45億年という長い間、その地球磁場がまったく逆になることが幾度か繰り返されている、ということについて知る人は少ないのではないだろうか。こうした地球の歴史を、岩石に残された地磁気痕から明らかにしてきたのが、渋谷教授が専門とする古地磁気学です。「溶岩が冷えて固まるとき、今の磁気テープのようにその時の地球磁場を記憶します。その記憶が現在のN、S極と逆向きになったら、その溶岩が固まった時代、地球磁場の向きが逆だったとわかる」という渋谷教授。N極とS極が入れ替わるのには短くても



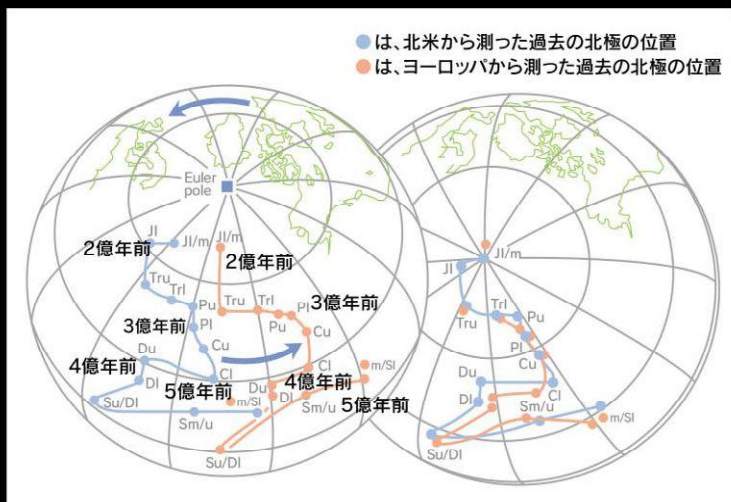
ドリルを使って取り出した岩石のサンプル

数千年かかり、有史以来の人類はこれを経験したことはありませんが地球の歴史では50万年に1度くらいの割合で起こっている現象。渋谷教授によると「ここ500年間で地球磁場が2割ほど弱くなっている。もしかしたら今、磁場が変わり始めているのかもしれない」。

大陸移動説を復活させた 古地磁気学

「大陸移動説」。それは1900年代の初め、当時の科学者たちに一笑に付され忘れられた理論でした。しかし、その後、海に隔てられた2つの大陸で同じ2億年前の地層の岩石を調べると、地磁気痕の北の方向がズレていて、大陸の位置や向きが現在と違ったと考える方が有力となり、「大陸

何十億年という時空のうねりの中で南北の座標軸を見つけ、地球の来し方と行く末の研究に挑む壮大な科学、「古地磁気学」。今回は、岩石に残された地磁気の記録を復元する新しい方法を発見、古地磁気学の発展に確かな一歩を刻んだ理学部の渋谷秀敏教授を訪ねました。

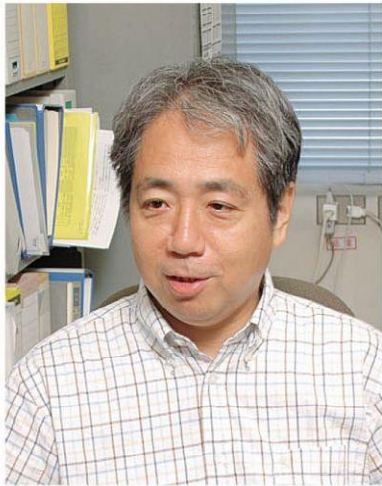


●と●は、それぞれ、北米とヨーロッパの岩石の古地磁気から求めた、過去の北極の位置。北極は一つだったはずだから、これらを一致させるには、北米をヨーロッパの横に移動させないといけない。これにより、大陸移動説は復活した。

PROFILE

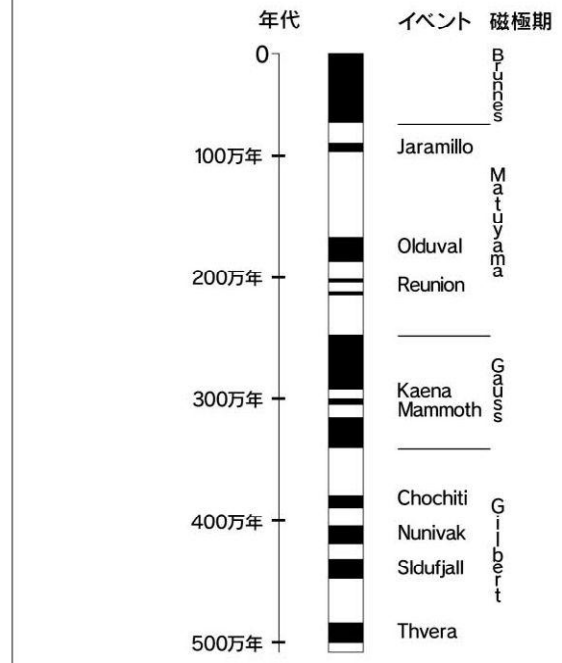
渋谷 秀敏 (しぶや・ひでとし)

1955年生まれ。大阪府出身。大阪大学基礎工学部物性物理工学科卒業。京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。理学博士、大阪府立大総合学部助手を経て、1996年熊本大学理学部助教授、2000年現職。専門は古地磁気学。ほかに、沈み込み背後のマントル内の対流のシミュレーション、月周回衛星による磁場測定の科学と技術研究など。



移動説は見事に復活。さらに、海洋底が拡大し大陸が移動するという「海洋底拡大説」となり、現在の「プレートテクトニクス」理論へと発展したのです。こういうわけで、当然、渋谷教授のフィールドも陸から海まで幅広く、1988年、渋谷教授は世界各国の研究者と

り、文字通り「煮たり、焼いたり」しながら、どうすれば情報が引き出せるのかを推理実証する毎日。「こんな学問でもそうでしょうが、「方法の発見」の先に、「新しい事実の発見」が結果としてある。だから、「方法を発見する瞬間にこそ、最も研究の醍醐味を感じられる」。悠久の地球の歴史を相手



古地磁気学によって発見されてきた地球地場の逆転の歴史。黒く塗りつぶされた部分が正磁極期です。

地球の謎解き 推理小説より おもしろい

にもフィリピンの背弧海盆の成因を探る航海に参加して2か月にわたって海底堆積物の地磁気変動を測定した。2006年に打ち上げ予定の月周回衛星に搭載する磁力計の開発へと、宇宙にまで広がっているのです。

採取した岩石の温度を上げたり、交流磁場にならした

おたくの精神を 研究へつなげて

に、謎解きの糸口をつかんだ瞬間の喜びは格別なのでしょう。「趣味は読書」と公言「ほとんど濫読ですわ」と笑うほどの読書好きにして、渋谷教授は「推理小説だけはほとんど読みません。推理小説は、読む側が作家の手の上で遊ばされている気がするから」。

それほどまでに古地磁気学に熱中する

渋谷教授ですが、この研究に入ったきっかけはというと、「正直、僕も何でかよくわからんですわ。小学生の頃に教師だった父に連れられて化石を採取したり、高校の地学クラブで六甲山の断層を見に行ったりはしていましたが…。大学で地磁気学を専門にしていた教授の研究室に入ったことが、この研究に邁進する直接のきっかけとなったようです。「ただ、もつと昔を思い出すと、幼稚園の頃、父が買ってくれた中学生向けの地図に没頭して、1か月そればかりを見ていたことがありました」と振り返る渋谷教授。「興味がわくと、とにかくそれを突きとめたい。もつと知りたいと考える。いわゆるおたくつてヤツですわ」。幼い頃から持っていた探究心と好奇心が渋谷教授を研究者の道へと導いたといえそうですが、物事にのめり込むおたくの精神は、研究者にも合い通じるのです。



そんな渋谷教授が高校生に贈るアドバイスは「興味のあることの周辺をどんどん掘り下げよう。素敵なファクションだと思つたら、じゃあ、誰が作ったんや、と調べる。きれいな花なら、なんでこんなにきれいなんだらう、と考える。興味の対象を掘り下げていくうちに、幅広い知識が蓄積され、それがより深い理解を支えてくれます」。

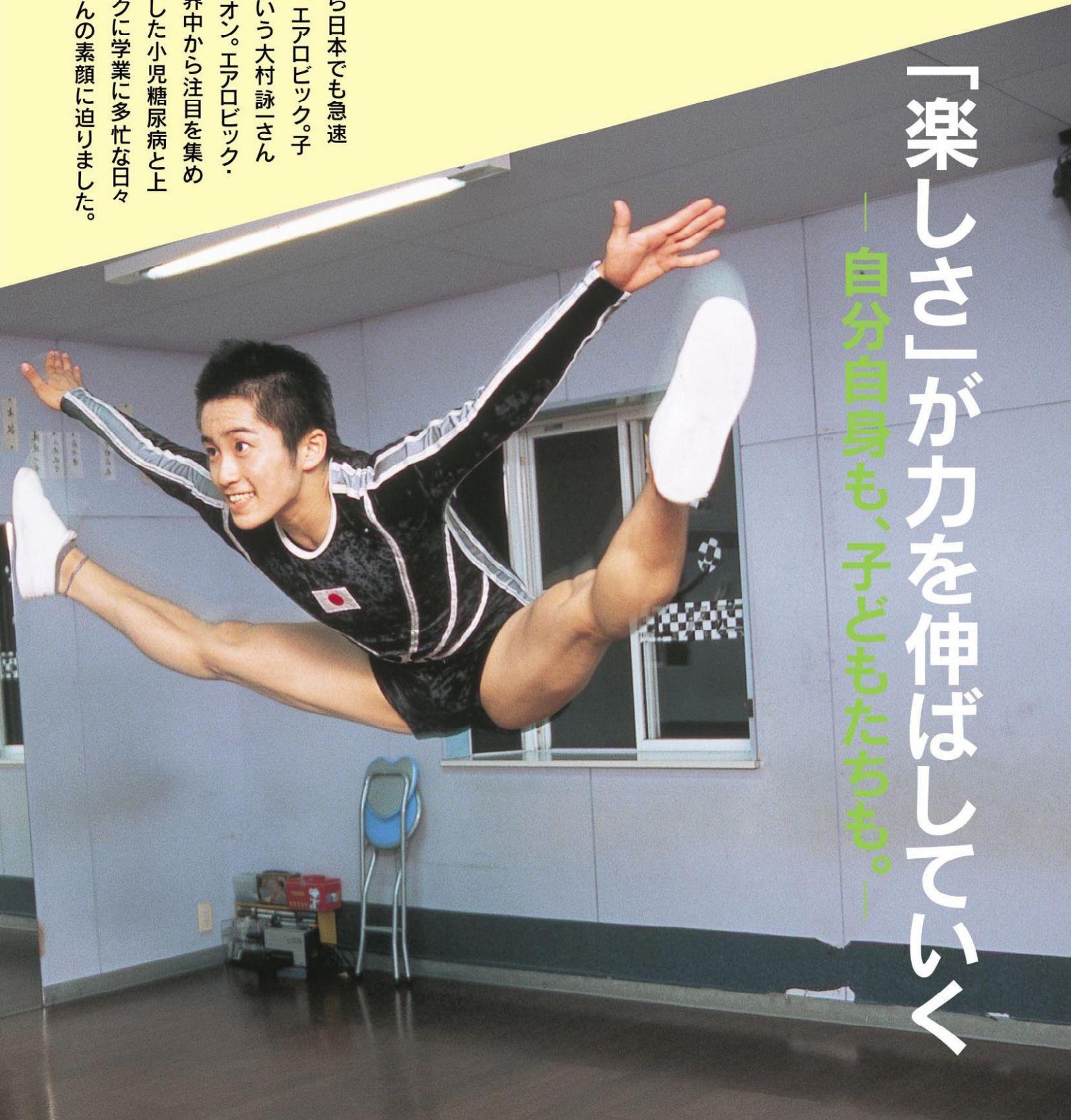
図の出典
「Paleomagnetism」Butler 1998

熊大群像

熊本大学教育学部2年 大村詠一さん

米国で誕生し、約20年前から日本でも急速に普及しつつあるスポーツ競技、エアロビック。子どもの頃は運動が苦手だったという大村詠一さんは、エアロビックの世界チャンピオン。エアロビック・ユース部門の先駆けとして、世界中から注目を集める存在です。小学生の時に発病した小児糖尿病と上手に付き合いながら、エアロビックに学業に多忙な日々を送る大村さん。そんな大村さんの素顔に迫りました。

「楽しさ」が力を伸ばしていく
—自分自身も、子どもたちも。—



「おもしろい」とを 大切に先生がタマゴ

「はいさつきのところ、もう一回やって。鏡張りの室内に、大村さんの声が響きます。夜8時。大学の講義の後、他の学生たちが、楽しそうにおしゃべりに興じたり、サークル活動やアルバイトに精を出す中、大村さんは、真つ直ぐ母親が経営するエアロビック・スタジオへ。

現役選手として活躍する一方、幼稚園児や小学生を対象にインストラクターも務めているからです。「ここがダメ」ではなく、「ここが上手だからこうすればもっと良くなるよ」と成長を認めて、褒めてあげると子どもたちはどんどん上達します」。

大村さんは、教育学部2年に在学中。将来の夢は「理科の先生」です。「理科は実験がおもしろい」という大村さんは、子どもたちの指導についても、「おもしろいことが大事」と話します。「親が『この子は才能がないから』と天井をつくるのではなく、『子どもが『楽しい』と思う気持ち』を大事にしてあげてほしいです。僕自身、サッカーや卓球といろんなスポーツを

やってきましたけど、やはりエアロビックが一番楽しかったから、今こうして続けているんですよね」。

病気があったから 今の自分がある

スタジオでは子どもたちが帰った後が、ようやく自分の練習時間になる大村さん。どんなに忙しくても、毎日2〜3時間の練習は欠かしません。週末になると、講演会やイベント、全国各地で開催される競技大会に出場したりと、休む暇はありません。「エアロビックをやっている以外は普通の学生です」と大村さん自身は言いますが、なかなかどうして多忙な学生ぶりです。今までに練習を休んだのは、センター試験前の一週間だけ。高校時代、世界大会と大学受験の時期が重なったこともあり、学校以外で勉強に当てられる時間はほとんどなかったといえます。「毎日のように曲や振り付けが変わるから、エアロビックをしているたら自然に暗記力や集中力がつくんですよ」と、こともなげに笑います。

実は大村さんは、小学2年生の時、小児糖尿病を発病。以後、毎日数回欠かすことなくインシュリン注射を打ち、血糖値のコントロールには細心の注意を払いながら、動きの激しいエアロビックを続けています。糖尿病

学会を通して講演を依頼されることも多いといいます。講演会では、小学生から大人まで幅広い年代層を対象に、糖尿病やエアロビックについて率直な思いを語ります。「病気がなったことで出会えた人もたくさんいる。エアロビックがあったから、病気があったからこそ、今の自分があると思います」。このポジティブな考え方が演技にも現れ、観る人を惹きつけるのかもしれない。

夢は、オリンピック

大村さんの目標は、理科の先生になることと、もう一つ。教え子たちをオリンピックに出場させることです。現在、エアロビックはオリンピックの正式種目として認められていません。「本当は、自分が現役の間にオリンピックの種目になつてくれるといいですが。2008年、次の2012年、そして次：オリンピックを見据えて、やるべきことはまだまだたくさんあります」。屈託のない笑顔の奥に、一瞬、真剣な眼差しがのぞきました。



熊本大学教育学部2年
大村 詠一さん



卒業生

を訪ねて

作家・脚本家

毛利恒之さん

伝えるなよ、知らせなよ、語り継ぐなよー私の使命として

戦争と戦後問題などを中心に、社会的なテーマを扱ったドラマやドキュメンタリーを多く手がけ、テレビドラマ脚本『十八年目の召集』で第1回久保田万太郎賞(1964年)を受賞したのははじめ、文化庁芸術祭大賞、放送文化基金賞本賞など幾多の賞を受けている毛利さん。戦後60年の今年、変わらないまなざしで戦争とあの時代を生きた人々をみつめる毛利さんを訪ね、その想いをつかがいました。

「新聞文章研究序説」

大学時代の私は国文学科に籍を置いていましたが、新聞記者志望で、いわゆる文学の研究よりも、新聞を中心とした社会的にアクチュアルに機能している文章に強い興味がありました。だから、日本とアメリカの報道手法の違いを調べたり、文章心理学を学んだりするのは熱心でした。新聞の文章のスピード感はどこからくるのだろうと、分析したりしたものです。ゆくゆくはジャーナリズムの仕事をしたかと思っていたのですが、学部にはジャーナリズムやマスコミュニケーションの講座はありませんでした。そんななかで、自分の好きなことをしていましたね。卒業論文は「新聞文章研究序説」です。それを許してくれる自由な空気と環境が熊本大学にはありませんね。

そのころ学んだことが私の文章表現の基底にあって、今日、さまざまな作品を書くときに活かしているように思いますね。

大学新聞を創刊すべし

「総合大学でありながら熊本には新聞がない。大学新聞を出してくれないか」大学3年のとき、高校時代の先輩にこう言われましてね。私は高校生のころから新聞づくりのムシだったもんですから、「二銭の資金も与えられないのに」大学新聞を創刊すべし」と心意気だけで始めちゃった。資金がないから、まず、「熊本大学新聞会」をつくり、自分の奨学金をはたいて、会員証と広告申込書をつくと、上通り・下通りなどの商店街に広告をもらいに行きました。当時は、熊大新聞を創刊しますという話だけで、学生さん、がんばりなさい、とお金を出してくださいの方も、いい時代だったですね。

ところが創刊号を、さあ印刷、というときにあの大水害です。昭和28年6月26日。熊大の近くの子飼橋付近でも多くの家が流され、熊本市内外で数百人が亡くなりま



毛利さんの著作の一部と映画「月光の夏」のパンフレットなど

PROFILE

毛利 恒之(もうり・つねゆき)

1955年、熊本大学法文学部国文学科卒業。NHK契約ライターを経てフリー。社会派ドラマ、報道ドキュメンタリーの作家として知られ、小説、ノンフィクション、映画、舞台劇など作品は多岐にわたる。小説『月光の夏』は自らの企画、脚本で映画化、210万人を観客動員する大ヒット作となった。文部省社会教育審議会委員・専門委員、日本放送作家協会常務理事などを歴任。著書に『地獄の虹―新垣三郎／死刑囚から牧師に』、『ユキは十七歳 特攻で死んだ一子犬よさらば、愛しいのち』など





毛利さんが原作・脚本・企画プロデューサーの3役を担った映画「月光の夏」(1993年、神山征二郎監督・仲代達矢主演。株式会社仕事製作)の1場面

した。熊大生も6名死亡。地元の新聞社も輸転機が水没して機能できない惨状のなか、われわれは急遽、被災の状況を知らせるガリ版刷りの号外を出しました。新聞を創刊できたのは、その年の10月です。「熊本大学新聞」は翌年10月には、西日本新聞社の学生新聞賞・最優秀賞を受けます。

実は、私はあの大水害後、新聞を出すために身体を酷使し、相当無理をしたことが災いして、知らぬ間に小さな肺結核の痕跡ができていました。それが就職の妨げとなり、内定していた新聞社にはいれませんでした。それで、のちに放送の世界へ

進むことになるのですが、そのきっかけは、大学4年のとき、あの大水害で取材したある悲劇を題材にラジオドラマを書いて放送されたことにあるのです。人間万事、どうころぶか、わからないもんですね。

なぜ、「特攻」を描くか

私は昭和8年2月生まれです。昭和20年、太平洋戦争の終戦のとき、旧制中学の1年生で、12歳でした。戦争中、少国民とよばれ徹底的に軍国教育を受けた世代で、軍事教練を受けた最後の中学生です。戦闘経験はありませんが、勤労動員を受け、空襲に遭い、震災でたくさんの方が亡くなるのを目の当たりにしました。こどもの頃から飛行機が好きで、空を飛ぶことにあこがれていました。少年飛行兵になろうと思っていました。国民学校(小学校)6年生の秋、日本軍の「特攻作戦」が始まります。神風特別攻撃隊などの特攻機による体当たりです。そのニュースに接したとき、衝撃を受け、自分は特攻で死ぬのだろうか、と内心ブルツたことを記憶しています。それがのちに「特攻」に関心を持ち、ドキュメンタリーや小説、映画などに描く原点になっています。

世代をつなぐ継ぎ手として

戦争末期に強行された特攻作戦は、世界の戦史上に類のない、人命を爆弾とした非情、無惨な戦法でした。特攻で

終戦間際の夏、出撃が迫った若い特攻隊員2人が「最後にピアノを弾きたい」と近くの小学校を訪れ、ベートーヴェンのピアノソナタ「月光」を弾いて去っていく……。実話に基づくこの映画は、「とまらぬ涙、かみしめる平和」といわれる感動を全国にひろげ、映画上映、テレビ放映、ビデオ観賞でのべ千数百万人に観られた。

(写真提供・株式会社 仕事)

出撃し、亡くなったのは、二十歳(たち)前後の若者たちです。なかには17歳の少年もいました。戦局が悪化したため、学生、生徒は学業半ばで繰上げ卒業になり、「学徒出陣」で戦場へ出されました。そして、多くの人が戦死しました。戦後、学制改革で五高(旧制第五高等学校)が熊本大学法文学部と理学部に変わる、そのわずか4、5年前のことです。取材してわかりましたが、五高出身の先輩で、特攻関連で戦死されたひとは45名にもほります。そのことは、同窓の若いひとびとに知っておいていただきたいと思って、文学部開学50周年の記念講演によべられたとき、戦没された方の犠牲について話しました。

私自身は、このように、戦争体験の世代と戦争を知らない世代とをつなぐ、ジョイントの立場にいます。ですから、戦争の体験を風化させないように、戦争の事実とその犠牲を語り継ぎ、平和の尊さ、いのちの重さを次なる世代に伝える役割を果たすべきだと、考えてきました。

若いころは、新聞記者にはならずには協道を歩いているような気がしていたのですが、それも今では、私自身に最もあつた表現・伝達の方法に出会うための道であったように思えます。私たちが生きた時代を書くこと、思いを伝えること、語り継ぐこと、それが使命だと感じています。

夢を持ち続けよう

若いみなさんにひとこと。学生のうちに、いつまでも情熱をもって取り組めるものを、ぜひ、つかんでください。それが、社会性があり、世の幸せのために役立つことなら、素晴らしいと思います。そして、持続する志。継続は力なりです。「可能思考」という思考法があります。出来ると思えば、出来る。すべてを前向きにポジティブに考え、夢を持つこと、持ち続けることです。夢は実現します。

シリーズ 国際交流協定校紹介 — ドイツ編 —

学生天国・ドイツで 英語文化の相対化を

「ドイツは『学生天国』なんです。日本円で一万円前後の登録料を払うと、半径50kmの公共交通は全て無料だし、ソーセージやビールはおいしいし」。そう話すのは、ボン大学との交流の世話をする文学部の杉谷恭一教授。

一方、熊本大学留学生センター長の坂田正治文学部教授は「留学したいと思っつきっかけは何でもいい。例えばサッカーのワールドカップを生で見たい、ということでもいい」。ドイツの大学との交流について、杉谷文学部教授と坂田文学部教授に話を伺いました。

学生にやさしい ドイツとの交流

世界に名だたる哲学者、芸術家を輩出してきたドイツは、学生にやさしいお国柄のようです。杉谷教授が語るように「安い寮はあるし、しかも熊大の学生は優先的に入れるんです。物価は安いし、治安もいい」。

そのドイツで1786年創立されたボン大学と熊本大学文学部が交流を始めたのは、15〜16年も前のこと。「当時、日本へやってくるのは英語圏の学生ばかり。それ以外の言語圏の学生も必要ではないか、ということになって。私自身、ボン大学に留学していたし、当時のドイツ人教員がボン大学出身だったこともあり、

毎年1人ずつ留学生が来るようになったんです」。杉谷教授はそう振り返ります。実際にボン大学日本文化研究所と交流協定が締結されたのは、1997年。以来、毎年4名ずつ、30名ほどの学生がボン大学に留学しています。協定校になると、留学先で新たに授業料を納める必要がありません。また、修めた成績は熊本大学の単位に振り替えられるので、留年する心配もないのです。

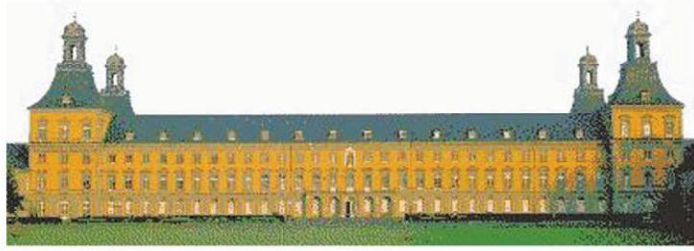
幅広い教養、独仏ふたつの文化との出会い

「協定を結んだ研究所は、人文学部日本学科の学生の教育も行っています。留学したら、主に専門に関する授業を受

けますが、日本学科の学生たちと一緒に、ドイツ語で行われる日本の歴史や政治経済などの授業を受けるのもおもしろいと思います。もちろん、他に美術史やエジプト考古学などの講義を聴くこともできるんです」。杉谷教授は、ボン大学留学



ボン大学との交流の世話をしている杉谷恭一文学部教授



ボン大学の本館は、1702年に建造された宮殿を転用しています。バロック様式の美しい建物で、落ち着いた雰囲気を感じられます。



ザールラント大学のキャンパス

の特徴をそう話します。幅広い教養を身に付ける環境。実際、熊大からの留学生の専攻はドイツ文学のほか社会学や言語学など多岐にわたっています。

ボン大学とともに、熊大とドイツとの国際交流を担うのが、フランスとの国境にはど近いところにあるザールラント大学。2001年協定校となったこの大学に留学する利点の一つは、「立地」です。「熊大でいえば裏の立田山に遊びに行く感覚でフランスに行くことができるので、ドイツ文化・フランス文化、どちらにも触れるいい機会になります」とは、同大学との協定の端緒をつくり、現在は熊本大学留学生センター長を務める坂田正治文学部教授の弁です。

英語圏の文化を 相対化する視点を学ぶ

ドイツという国自体も大学も、確かに素晴らしい環境に恵まれています。しかし杉谷教授が考える「ドイツで学ぶ意味」は、それだけに留まりません。「ドイツはEUの中心国家。ヨーロッパだけで見れば、英語を母語とする人より、ドイツ語を母語とするの方がはるかに多い。本当の意味で『世界的』視野に立てば、英語に『極集中するより、ドイツ語やドイツ文化を学び、英語圏の文化を相対化する視点が必要ではないでしょうか』。

一方、留学する際には目的が大事、と話

すのは、坂田教授。「留学するからには『そこで何を学ぶのか』という問題意識はつきり持つてほしい。単なる語学研修ではなく、何かを学ぶための留学ですから。だからこそ、どこで学ぶにしろ留学

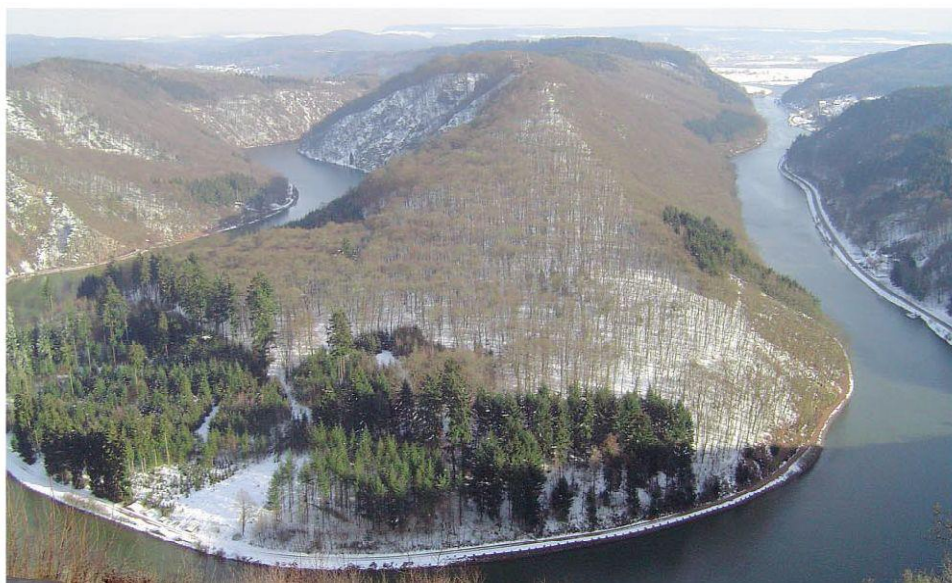
する際にはある程度の語学力が必要と、坂田教授は力説します。「語学力がないと、留学期間の前半、ドイツ語習得に明け暮れることになります。せっかくの単位互換制度ですから、実質的な意味を持つようにしたい。熊大にはネイティブスピーカーの先生もいて、ドイツ語を学ぶ環境は整っていますよ」。

学生交流は毎年盛んに行われている。研究者交流ももっと広げていきたいと、坂田教授は意欲的です。「個別の研究でも『現地に行く』メリットは大きいですし、研究者同士の情報交換を進めていきたいですね」。さまざまな「知の交流」の可能性を、協定締結が広がっていきます。



熊本大学留学生センター長も務める
坂田正治 文学部教授

U字型に蛇行するザール川



平成18年度 大学院試験日程(平成17年7月1日現在)

選抜区分	願書受付期間	試験日	合格者発表
文学研究科(修士課程) 社会人特別選抜を含む 《第1期・秋季日程》	8/31(水)～ 9/6(火)	9/26(月) 27(火)	10/17(月)
文学研究科(修士課程) 社会人特別選抜を含む 《第2期・春季日程》	1/16(月)～ 1/20(金)	2/13(月) 14(火)	2/27(月)
教育学研究科(修士課程)	8/15(月)～ 8/19(金)	9/16(金)	10/14(金)
法学研究科(修士課程) 社会人特別選抜及び外国人留学生 特別選抜を含む《第1期》	9/1(木)～ 9/7(水)	9/24(土) 25(日)	10/14(金)
法学研究科(修士課程) 社会人特別選抜及び外国人留学生 特別選抜を含む《第2期》	1/16(月)～ 1/20(金)	2/11(土) 12(日)	2/21(火)
医学教育部(修士課程) 推薦入学	6/24(金)～ 6/30(木)	7/11(月)	7/25(月)
医学教育部(修士課程) 《秋季日程》	7/25(月)～ 7/29(金)	8/22(月) 23(火)	9/12(月)
医学教育部(修士課程) 《春季日程》	1月上旬～ 1月中旬	1月下旬	2月下旬
医学教育部(博士課程) 社会人特別選抜を含む 《秋季日程》	7/25(月)～ 7/29(金)	9/5(月) 6(火)	9/30(金)
医学教育部(博士課程) 社会人特別選抜を含む 《春季日程》	1月上旬～ 1月中旬	2月中旬	2月下旬
薬学教育部(博士前期課程) 推薦入学	6/24(金)～ 6/30(木)	7/11(月)	7/15(金)
薬学教育部(博士前期課程) 外国人特別選抜及び社会人 特別選抜を含む	7/25(月)～ 7/29(金)	8/19(金)	8/26(金)
薬学教育部(博士前期課程) 第2次	11月下旬	12月上旬	12月中旬
薬学教育部(博士後期課程) 社会人特別選抜を含む	1月下旬	3月上旬	3月上旬

選抜区分	願書受付期間	試験日	合格者発表
薬学教育部(博士前期課程) 10月入学外国人特別選抜及び社会人 特別選抜を含む	7/25(月)～ 7/29(金)	8/19(金)	8/26(金)
薬学教育部(博士後期課程) 10月入学外国人特別選抜及び社会人 特別選抜を含む	7/25(月)～ 7/29(金)	8/19(金)	8/26(金)
社会文化科学研究科(博士課程) 社会人特別選抜及び外国人留学生 特別選抜を含む《秋季日程》	9/15(木)～ 9/21(水)	10/29(土)	11/28(月)
社会文化科学研究科(博士課程) 社会人特別選抜及び外国人留学生 特別選抜を含む《春季日程》	1/23(月)～ 1/27(金)	3/1(水)	3/13(月)
自然科学研究科(博士前期課程) 推薦入学	5/30(月)～ 6/2(木)	7/2(土)	7/15(金)
自然科学研究科(博士前期課程) 社会人特別選抜を含む	7/25(月)～ 7/29(金)	8/25(木) 26(金)	9/9(金)
自然科学研究科(博士前期課程) 外国人留学生特別選抜	2月上旬	2月下旬	3月中旬
自然科学研究科(博士前期課程) 学部3年次を対象とする選抜	2月上旬	3月上旬	3月中旬
自然科学研究科(博士後期課程) 社会人特別選抜	7/25(月)～ 7/29(金)	8/18(木) 19(金)	9/9(金)
自然科学研究科(博士後期課程) 10月入学 社会人特別選抜、外国人留学生 特別選抜及び帰国子女特別選抜を含む	7/25(月)～ 7/29(金)	8/18(木) 19(金)	9/9(金)
法曹養成研究科	10/21(金)～ 10/27(木)	第1次選抜 11/27(月)	12/3(土)
		第2次選抜 12/11(日)	12/15(木)
		法律科目試験* 1/7(土) 8(日)	1/13(金)

※上記日程は7月1日現在の予定です。最新の情報や問合せ先などの詳細は、熊本大学のHP <http://www.kumamoto-u.oc.jp/univ-j.html> をご覧になるか、各学部・学科にお尋ね下さい。

平成18年度編入・専攻科・別科試験日程 (平成17年7月1日現在)

選抜区分	願書受付期間	試験日	合格者発表
編入学 文学部第3年次編入学	10/3(月)～ 10/7(金)	11/5(土)	11/18(金)
法学部第3年次編入学	10/3(月)～ 10/7(金)	11/5(土)	11/18(金)
理学部第3年次編入学	5/30(月)～ 6/2(木)	6/18(土)	7/5(火)
工学部第3年次編入学 (推薦入学)	5/30(月)～ 6/2(木)	6/10(金)	6/24(金)

工学部第3年次編入学 (一般選抜)	7/25(月)～ 7/29(金)	8/23(火)	9/9(金)
医学部保健学科 第3年次編入学	7/11(月)～ 7/15(金)	9/1(木)	9/20(火)
専攻科 特殊教育特別専攻科	2月中旬	3月上旬	3月中旬
別科 養護教諭特別別科	11月上旬	12月上旬	12月中旬
短大 医療技術短期大学部 専攻科助産学特別専攻	12/5(月)～ 12/9(金)	1/7(土)	1/27(金)

授業開放
後学期

熊本大学の正規の授業を
熊大生とともに受講してみませんか。

受講生募集

開講
期間 10月～3月

募集
期間 8月1日～
8月31日

募集要項を
ご希望の方は、

請求者の郵便番号、住所、氏名を記載し、200円切手を添付した返信用封筒(角型2号封筒:33×24cm)を同封し、請求してください。

お問い合わせ/募集パンフレット請求先

熊本大学
生涯学習教育研究センター

TEL.096-342-3121
FAX.096-342-3110

E-mail:sos-tiiki@jimu.kumamoto-u.ac.jp

8月9日(火) オープンキャンパス開催

K u m a m o t o U n i v e r s i t y



Open Campus

見つけよう あなたの未来 君の夢

8/9
Tuesday

黒髪キャンパス

文学部 開催時間 13:00~16:00 集合時間 12:50 集合場所 文・法学部 A12 B2 教室	教育学部 開催時間 午前の部 10:00~12:00 午後の部 13:00~15:00 集合時間 午前の部 9:50 / 午後の部 12:50 集合場所 教育学部 318 219 教室	法学部 開催時間 10:00~12:00 集合時間 9:50 集合場所 文・法学部東側玄関	理学部 開催時間 10:00~15:00 集合時間 午前の部 9:50 / 午後の部 12:50 集合場所 理学部玄関前	工学部 開催時間 9:30~15:10 受付時間 午前の部 9:00~ / 午後の部 13:00~ 受付場所 工学部百周年記念館ロビー
--	---	---	--	---

対象：高校2年生以上

本荘・九品寺キャンパス

医学部医学科 開催時間 9:30~12:00 集合時間 9:20 集合場所 医学部基礎第一講義室	医学部保健学科 開催時間 午前の部 10:00~12:10 午後の部 13:30~15:40 受付時間 午前の部 9:30~ 9:50 午後の部 13:00~13:20 受付場所 保健学科玄関ロビー
--	---

対象：高校2年生以上

大江キャンパス

薬学部 開催時間 13:00~15:30 受付時間 12:15~12:45 受付場所 薬学部正面玄関
--

対象：高校2年生以上



同時開催

九州・山口地区国立大学進学説明会

開催時間 10:00~16:00 熊本大学大学教育センター1階特設会場
 地元熊本にしながら、他県の各国立大学の様々な入試情報を得るチャンスです。皆さん奮ってご参加ください。

個別相談ブース

各国立大学の入試関係教職員が、参加者からの各種相談・質問などにお答えします。
 参加予定大学 ●九州大学 ●佐賀大学 ●長崎大学 ●大分大学 ●鹿児島大学 ●琉球大学 ●山口大学 ●熊本大学

資料配布コーナー

各大学・学部等の概要、資料などのパンフレット類を自由に持ち帰ることができます。
 ●福岡教育大学 ●九州大学 ●九州工業大学 ●佐賀大学 ●長崎大学 ●大分大学 ●宮崎大学 ●鹿児島大学 ●鹿児島体育大学 ●琉球大学 ●山口大学 ●熊本大学



国立大学法人 **熊本大学 学務部入試課**

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
 TEL 096-342-2146 FAX 096-345-1954
 E-mail nyushi@jimmu.kumamoto-u.ac.jp
 熊本大学ホームページ(URL) http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html



教育学部教授
吉永 誠吾

Vol.9 Book
お薦め
の一冊

この一冊は、そもそも西洋のクラシック音楽を静かに集中して聴くということは無条件に正しいことなのであるうかというクラシックのコンサートはもちろんのこと、学校教育における音楽の鑑賞の時間などで広く一般に正しいことだと思われていることに対して鋭い疑問を投げかけています。

この一冊は、そもそも西洋のクラシック音楽を静かに集中して聴くということは無条件に正しいことなのであるうかというクラシックのコンサートはもちろんのこと、学校教育における音楽の鑑賞の時間などで広く一般に正しいことだと思われていることに対して鋭い疑問を投げかけています。

この役割でしかありませんでした。今日行われているような、いわゆるチケットを購入してコンサートホールで静かに集中して音楽を聴くというような風景は19世紀のヨーロッパで産業革命によって富裕な市民階級が台頭してから起こったことであり、そのような歴史のない日本では決して当たり前のことではなかったのです。音楽を静かに集中して聴くためには演奏者にもそれを鑑賞する者にも、守るべき何か大切な条件があるようです。



「聴衆の誕生」
渡辺 裕著 春秋社

熊本 新哲学の道



熊本は若者が古着などを使ったユニークなファッション文化を発信していることでも知られていますが、特にこの界限はそれぞれにこだわったセンスを競い合っている店が多く、眺めて歩くだけでおしゃやかな気分にもなってきます。夜の帳につつまれるころ、小粋な店を訪れる人々で、通りは昼間よりも賑やかになります。熊大のキャンパスからは歩いて行ける距離、学生たちもお気に入りの店へ、よく立ち寄っているようです。

(広報室 高浜佳依)

新しさと古さが同居する上通界限

熊本市の繁華街といえは下通から上通へと続くアーケード街。その上通の北の端、アーケードの屋根が途切れたところから、青天井の並木道が始まり、広町の丁字路へ突き当たります。この辺りが並木坂通で、熊本大学の「まちなか工房」は、この通りに面した薬局の二階に大きなガラス窓を広げています。並木坂通のひとつ東側に並行して延びるのが上乃裏通。ここは、熊本の若者に人気の工



生きるチカラを 強くする。



社会に貢献できる「知」の創造のために、
大学が真に創造すべきは「人」です。
強い意志、粘り強い探究心、
そして社会と他者に対するやさしい眼差し
それらを備えた真に強い「生きる力」を
熊本大学は育てます。

火になる人、 幹になる人へ

熊本大学

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。